



時事寸考

シーダ・ウォーク施設長・医師の吉田です。Covid-19(新型コロナウイルス)ワクチンの投与がいよいよ日本でも始まりました。当初は国立病院など100病院の医療従事者に投与し、順に対象を拡げていく予定です。使用するのはファイザー社のmRNAワクチンで3週間間隔の2回打ちとなります。正式な臨床試験は日本では行われておらず(特例承認)、試験的な意味もありますので副反応を含めた成績に注目したいところです。検査については概ね定まってきましたので下記(厚生労働省サイトから)を参照してください。

検査種類	抗原定性検査	抗原定量検査	PCR検査
調べるもの	ウイルスを特徴づけるたんぱく質(抗原)	ウイルスを特徴づけるたんぱく質(抗原)	ウイルスを特徴づける遺伝子配列
精度	検出には一定以上のウイルス量が必要	抗原定性検査より少ない量のウイルスを検出できる	抗原定性検査より少ない量のウイルスを検出できる
検査実施場所	検体採取場所で実施	検体を検査機関に搬送して実施	検体を検査機関に搬送して実施
判定時間	約30分	約30分+検査機関への搬送時間	数時間+検査機関への搬送時間

抗原定性検査はキットを使ってその場で判定できますが感度はやや劣ります。ただし発症9日以内ならば実用上PCRと変わらないようです。PCRおよび抗原定量検査は検体を特殊装置をもつ検査機関に送らなければなりませんが感度はすぐれており無症状者の診断にも使用できます。また唾液を用いた検査も可能です(唾液の中にウイルスがいるわけではなく口腔内のウイルスを拾ってくるので理論上の感度はやや劣るのですが)。

栄養科より今月の一押しメニュー

3月3日ひな祭りの昼食は「ばらちらし寿司・清まし汁・茶碗蒸し・桃の紅白ゼリー」をご用意します。おやつはひな祭りをイメージした和菓子です。



3月は、筍ご飯や菜種焼き、ミモザサラダなど春らしい献立も登場します。食事からも春の訪れを感じていただければと思います。



Cedar Walker 法律相談

相続人に行方不明者がいる場合

相続が発生した場合には、まずは故人の財産の把握に手間がかかります。調査のなかで、先祖伝来の土地が、何代も前のご先祖様から名義が変わっていなかったことが発覚することがあります。そのような場合、不動産の名義を変更するためには、戸籍を何代も前に遡って調査して、現在



の相続人の全員を探さなければなりません。遺産分割は相続人の全員で行う必要があるからです。

ところで、戸籍を何代も前に遡って取り寄せると、なかには、まったく面識がなく住民票も設定されていない親族が見つかる場合があります。例えば、戦後しばらくまでは、法的な養子縁組の手続きをしないまま養子に出で、別人の氏名を名乗って生活してきたというケースもありました。また、現代でも、何らかの事情で住民票を異動させずに行方をくらませる方もいます。

このような場合は、戸籍を追っても相続人の所在を調査することはできません。では、相続人の中に行方不明者がいる場合にはどうやって遺産分割協議を行えば良いのでしょうか。

方法としては2つあります。1つは、家庭裁判所に失踪宣告の申立をするものです。行方不明者が最後に判明している住所を去ってから7年が経過している場合には、家庭裁判所に失踪宣告の申立をすることで、行方不明者が亡くなったものとみなされます。つまり、失踪宣告が認められた場合には、行方不明者以外の相続人と、遺産分割協議をすればよいことになります。なお、行方不明となった原因が戦争や海難事故等であった場合には、行方不明から7年が経過せずとも失踪宣告の申立をすることができます。

2つめは、不在者財産管理人を家庭裁判所に選任してもらうというものです。行方不明者が7年を経っていない場合に用いることがあります。この場合は、不在者財産管理人が行方不明者の代わりになって、他の相続人と遺産分割協議をします。長年、名義を書き換えていなかった不動産が見つかった場合には、遺産分割協議の負担が非常に大きくなります。しかし、放ったままにすると時間が経つにつれて、さらに相続人が増えていってしまいますので、面倒でも遺産分割協議を開始する必要があります。

マスクを正しく着けていますか？

シーダ・ウォーク 看護師です。新型コロナウイルスの感染が発生してから1年が経ちました。

感染拡大を防ぐため、症状がなくてもマスクを着用するというように、私たちの意識も変わってきました。

これから暖かい季節になり、花粉の多くなる時季にもなります。マスクが顔にしっかりフィットできているかどうか？ の確認方法を不織布マスクでご紹介させていただきます。

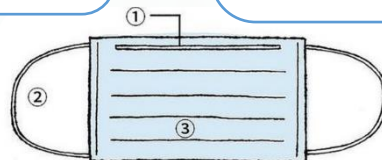
マスクの各部の名称

② 耳ひも

基本的に、ひもがついている側が内側。(メーカーによっては外側の場合もあります。)

① ノーズフィッター

マスク上部につけられている、細くて柔軟性のあるプラスチック。鼻の形に沿わせてマスクと顔の間のすきまをなくす役割を持ちます。



③ プリーツ

プリーツの広がり具合を調整することで、顔の形や大きさに合わせやすいようにつくられている。あごが隠れるまで大きく広げて着用します。

マスクの正しい着け方



① ノーズフィッターを上にして、マスクを顔に当ててください。

マスクの裏表や、上下の向きを確認。マスクによっては上下がわかりにくい物があります。確認方法は、マスクを広げてヒダが下向きになる方が外側になります。その他、パッケージの写真や絵を見ると分かる事もあります。



② 左右のゴムを左右の耳にかけ、マスクを固定してください。

マスクの紐を耳にかけノーズフィッターが上になるようにして顔に当てます。



③ マスクを上下に引っ張り、鼻と頬を覆ってください。

プリーツを拡げて、マスクの下部分をあごの先まで伸ばします。



④ ノーズフィッターを鼻筋に合わせて曲げ、顔に密着させてください。

ノーズフィッターを曲げ、隙間ができないように調節します。マスクに息を吹きかけて、膨らんでいればしっかりつけられている目安になります。

★こんな時はマスクのサイズが合っていないかもしれません…

- あごが覆えない
- 鼻の脇や頬に大きな隙間ができる

対処法

- 布マスクなどと重ねて使用する。
- マスクの紐をクロスしてつけてみる。など

毎日のマスク生活の中で、通院などに行く際は、ウイルス対策の効果が高く衛生的な使い捨ての不織布マスクを使い、日常のお買い物やお散歩には付け心地の良い布マスクを使うなど、生活スタイルによってマスクを使い分けていくのも良いかもしれません。大切なのは「手洗いをしっかり行いマスクを着け続ける」という事です。ウイルスの感染状況、変異、ワクチンの開発、医療の進歩、自治体の施策など、私たちを取り巻く環境は日々変化していきます。その時々で正しい情報を見極め毎日が穏やかで健やかな日々を送っていきましょう。